もど子と人婦

號拾第　卷貳拾第

行發會ルベーレフ

第拾貳卷第拾號目次

事物に念を入れる習慣養成の必要　中島力造

子供は子供らしく教育せよ　速水滉

自分の一番よく知つて居る人　岡田みつ

子供の病氣豫防及手當　石塚保吉

京坂神聯合保育會提出遊戯（神戸市の部）

幼兒保育の新目標　倉橋惣三

大坂にて　倉橋生

第十二卷第十號

婦人と子ども

事物に念を入れる習慣養成の必要

文學博士　中島力造

一

これは更めて申上げるまでもないことでありますが、人間の知識が進み、社會がだん〳〵と發達して參りますると、今までは極めて單純であつた總ての事物が、次第に複雜の度を增して來るのであります。從つて其の心得を以つて萬事に注意し、念を入れて物事をする習慣をつけて置きませぬと、總てに損害も多くなりまするし、また或る場合には不測の危險を酵し、取り返しのつかぬ過を見ることが一にして止まらぬと思ひます。例へば器物の取扱などに就いて考へて見ましても、文明の社會に使用されて居る器物は、未開人の間に使はれて居る器物に比して、遙かに巧妙に出來て居ると共に、それが破損の度も遙かに多いのでありまするので、未開時代の器物を使用する心持や態度で、文明の器物を使用してはならぬのであります。未開人の造つた器物は粗雜に出來て居りますので、少しは手荒き取扱をいたしましても容易に毀れて役にたゝなくなることはありますまい。けれども、開明人の造つた精密なる器物は、

さうは出來て居らぬのであります。

二

爰に特に兒童の時に此物事に念を入れる習慣を養ふ必要を語を强めて申上げて置き度いと思ふのであります。と申すのは、わが國は僅々四五十年以前より遽に歐米前進國にて發達したる事物を取入れたのであります。換言すれば、我が國人は、彼國の精巧なる器物を使用する事になつた。詰り一躍して彼れの長を取り、其の利器を使用する事になりましたが、それを使ふだけの練習が出來て居らぬのであります。未開時代の粗雜なる器物を使用すると同一の心持で、文明の利器に對して居るのであります。その爲めに、つい〳〵過失の度が彼の國よりも多くなるのであります。卑近なる例を擧ぐれば懷中時計の取扱にしましても、日本の人は其の扱ひ方が粗暴である爲めに、時計の修繕が非常に多いと云ふことであります。西洋諸國の人々にあつては、時計を損ふことは殆んどないと云つてよろしいさうであります。これは全く念を入れて取扱ふ習慣がついて居るからであります机の上に置くにしても、發條を卷くにしても、常に用心して取扱ひさへすれば、さう無暗に破損することがなからうと思ひます。その他、總て硝子類の器物は毀れ易いことは何人も知りきつて居ることであります。けれども、其の受渡をするに當つて、確に相手の人が手にしたかどうかを見定めない中に、自分で手を放す。臺の上に置くにしても、下に落ちぬかと念を入れ、物に當らぬか器物の上に他の物が倒れて來ぬかと念を入れ十分注意して取扱はぬので、その爲めに自然と破損の度が多くなるのであります。

三

ランプ其の他の火器より起る過失の多いのも要するに其の取扱に念を入れることを忘れて居る

爲めに外ならぬのであります。これから冬季に入りますると、どうしても火事が多くなります。これも歐米諸國の例に比すると、矢張り我國の方が多いのであります。これもストーブや火鉢の火を念入れて消火することを怠つたり、灰を捨てるにしても、十分の注意を以つて仕末をつける習慣が缺けて居るからであります。傳染病が流行して來ますと、當局者から消毒をやかましく云はれる爲めに、何れも一通りの消毒はいたします。けれども同じするにも、十分に念を入れてせずに、たゞ形式に止まつて居る爲めに、何の効果もないのが今日の有樣であらうと思ひます。日本の學校ほど窓硝子を毀す國はないさうですが、實際にどの學校へ行つて見ましても、窓硝子の毀れて居ない學校はないやうであります。又病人に與ふる藥を誤つた爲めに命を失はしめたる例が少くありませぬ。昔の漢法醫の盛つた藥であると、少し位の間違があつても、その爲めに生命に關る程の害はありますまいが、醫學的知識の發達したる今日の藥は、少しの分量及び質の相違で意外の結果を見るのでありまするから、十分に念を入れて取扱はねばならぬのに、それをせぬ爲めに人を死に到らしむるやうな場合が起るのであります。斯ういふ例を一々揭げて見れば、殆ど數へ盡されぬ程であります。人が單に『これは過失で』として、許して居る事柄の殆ど總ては、要するに取扱上念が入らぬといふことに歸因して居るのであります。

四

これを日常の社交的關係に就いて見ましても、矢張り前と同樣の弊が隨所に行はれて居ると思ひます。例へば人と約束をするにしても、其の事に深く念を入れてせぬ爲めに、種々の誤解や行違が澤山に生ずるのであります。啻に動作の上ばかりではなく、言葉づかひの上にも、出來るだけ明瞭

に話す、不明なる處は飽くまでも反覆して確めて置くといふ習慣を造る事が大切であらうと思ひます。世の中には談話に念を入れたり、問ひ返したりすることは、失禮のやうに考へて、感情を害する人もあるやうでありますが、それは誤りであると思ひます。さういふ間違つた考を持つて居た時代もあつたかも知れませぬが、今日は最早やさういふ時代ではなくなつて居ります。さういふ無意味の心配で、重要な事件に對して十分に念を入れぬので、なさなくともよい間違を生ずるのは却つて幾倍の失禮に當るかも知れぬ譯であらうと思ひます。

もう一つ大切なのは、今の人は讀書に念を入れて讀む習慣が薄らいで居ることであります。昔は書籍の數が少かつた爲めに、多讀が出來ぬので、十分に念を入れて其の一冊を精讀し、其の一言一句を味到するといふ風でありましたが、今日は全くこれと反對で、精讀はしなくとも、一言一句は味はなくとも、出來るだけ澤山の書に眼を通して置けばよいと云ふ風になつて來て居ります。これも誤りであらうと思ひます。人の說話を聞くにしても、昔は演說會などと云ふものがなく、聞く場合には目の邊り先輩に接して、其の經驗なり敎訓なりを聞く爲めに、十分に念を入れて、身に取り入れることが出來たのであります。それ故に比較的先輩の士に接することが少なかつたけれども、質に於て良い知識を持つことが出來たのであります。今日は反對に量に於ては多くても、眞に我が心に色讀することが少いのであります。要するにそれは讀書や講義に深い注意を拂はぬからであります。

五

現今の社會では、人の說を誤て聞いたり、書に現はれて居る意味を間違つて解釋することに對し

て、何等の道德的意識を有つて居らぬばかりではなく、其の誤つた解釋を第三者に傳達する場合にも、何等の社會的制裁がないのでありまするが、これは二者共に大なる道德的罪惡であらうと思ひます。少くとも相手の感情を害するは勿論、事態の重要なる問題にあつては、惹いて法律上の裁決を受くるに到る如き場合が往々にして生ずるのであります。これは初めより間違はうと云ふ惡意のあつてすることでは勿論ないので、たゞ不注意であつた結果、十分に念を入れなかつた爲めに生じた間違でありまして、さういふ間違を尠からしむるにはどうしても子供時代より、總ての物事に念を入れる習慣をつけて置くことが必要であります。

更らに一歩進んで之れを考へて見まするとさういふ多くの間違を生ずる最も主なる原因は、自己の行爲に對する責任の感じが稀薄である爲めであります。法律上の制裁さへ免れれば、其の他の行爲に就いては、どういふ結果を見ようと關せぬといふやうに、道德的責任の意識が全く缺けて居る爲めであらうと思ひます。然し人は法律ばかりで立ち得るものではない、今後の社會は是非とも、何れの方面に對しても責任の感じの強い人々によつて建てられなくてはならぬのであります。さういふ責任の感じを養ふにも、子供の時より總ての物事に念を入れる習慣を養ふことが必要になつて來るのであります。

六

然らば此の習慣を養ふには、兒童期の何れの時代から始むべきであるかといふ點に就いては、兒童其のものゝ心理的發達の過程から考へて見まするならば、またいろ〳〵の議論もありませうけれども、其の道に專ならざる自分は、さういふ細部に渉つてお話をするだけの用意もありません。然し乍ら、一般に此種の習慣は、或る時期より急遽

に養成することは困難であります。殊に成人に達してからは、容易に其の意識を習慣化することが困難であります。また一方に、さういふ躾の嚴重なる家庭に人となつた者は、さうでなき家庭に育つた人に比して、遙かに其の性情を異にして居ることを以つて見ますると、これは是非とも幼稚園及び小學校時代より、養つて行くべきものであらうと考へるのであります。

幼稚園の職能としては、種々なる役を有して居りませう。然し子供にいろ〳〵の事柄を敎へ込むことよりも、斯ういふ習慣をつけてやることが、一層大切の仕事ではあるまいかと考へるのであります。兒童は知識慾の盛なものでありまするので、もとめて其慾望を刺戟しなくても、兒童自ら啓發して行くに十分であります。然し今申した如き習慣に對しては極めて其の感じが鈍いのみならず、却つて之れを打ち毀して行かうとする傾向の多いものでありまするので、其の保育にある人は十分の注意と指導とが大切であらうと考へるのであります。（談、在文責記者）

子供は子供らしく敎育せよ

文學士　速水滉

無邪氣は子供の生命

子供の無邪氣な、天眞爛熳なこと程、世に美しいものはありません。子供の如何にも無邪氣に遊んで居る有樣を見ると、恰度、天上から神の使で

も降りて來たやうな感じがいたします。從つて無邪氣といふことは子供の生命と云つてよい位で、邪氣のある、ひねくれた子供を見ると、何となしにいやに憎らしい感じがして來ます。

よく家庭や學校などで、子供におとなしくせよと申しますが、おとなしくせよと云ふことは、成人らしくせよと云ふことで、これは無理な注文でもあるし、また子供の子供たる美點を尊重する所以でもあるまいと思ひます、子供はどこまでも子供らしい處があるから可愛いので、若し成人の云ふ通りになつて居たならば、其の美しい子供らしさはなくなつて來ようと思ひます。少し位いたづらはしても、成人の云ふことを聞かない處に、子供の子供らしさがあるのではありますまいか。

さういふ譯で、私は子供を教育するにはどこまでも無邪氣に、子供らしいやうに教育せなければならぬと思ひます。餘り早くから成人びたやうに育て度くはありません。譬へば植物にしても、天然のまゝ、極くすなほに育つて行くことが好しいので、初めから、無理に枝を撓めたり、曲げたり植木屋が物好で造くる不自然なやり方は好ましいものではありません。一つ特別な例を以つて云へば表面の美しさを飾るといふ僞善的の行は、子供には全くないので、どこまでも自分の思ふことは率直に云ひ表してしまう。表面だけは從順しいやうに見せかけて、蔭で惡口を云つたり、反抗したりするやうな言葉を洩すのは、要するに子供がねじくれて居るからであつて、若し斯ういふ傾が少でもあつたならば、用捨なく叱つて、毫も假借する所のないやうにせなければならぬと思ひます。勿論、叱るにしても、たゞ無暗にしかればよいと云ふ意味ではありません。十分に子供の心理を理解し、子供の心に立ち入つて、それに同情した上で叱ることの大切なのは云ふまでもありません。

日本の子供は子供らしくない

一體に日本人の子供は、どうも西洋人の子供に比べると、餘り早く子供らしさがなくなると云ふ傾があるやうに思はれます。これは日本人が一般に早熟である爲めに起る弊でもありませうが、然し家庭に於ける父母などの取扱が惡い爲めにも歸因して居る處が多いのであります。則ち子供を早くから成人と同じやうに見る誤つた取扱方が、さういふ結果を生ずるに與つて居るのであらうと思はれます。一例を以て云へば、西洋人は子供が相當の年齡に達するまでは、宴會等に招待されても、自分の子供を其の席に連れて行つたり、成人の見る芝居や寄席などへ連れて行くといふやうなことは絕對にないのである。ところが日本では、成人の行く處へは何の顧慮もなく子供を連れて行く、連れて行けば成人に氣に入らうと云ふ人は、先づ子供にお世辭や嬉がらせを云ふ。それからして、子供は何となしに傲慢になるばかりではなしに、早く成人びて來るやうになるのであります。

一體、子供が自分の事柄について自覺を持つやうになつて來るのは、成人のやうに自分で自分を省みる結果ではなく、大體は外部の人が自分をどんな風に見て居るかを知ると云ふことから起るのであります。成人でも屢々これがありますけれども、子供には殊に著しいのであります。女の子が自分が女子であると云ふ自覺の起るのも、其の因を尋ねて見れば、男子と違つた著物を母に依つて着せられたり、男子とは違つた取扱をされるといふことから起るのであります。從つて子供の心理は成人が、それをどういふ風に取扱つて行くかと云ふ事から定つて來るものでありまして、子供の著物の如きも、極めて些細なことのやうであるか、どういふ物を著せて置くかと云ふことが、直

ちに子供の心理に關係を及ぼして來るのであります。

子供同志で遊ばせよ

誰れでも知つて居りますやうに、人間は非常によく眞似をすると云ふ根本的の性質を持つて居るので、殊に子供は最もよく眞似をする。よく世間で云ふことであるが、お爺さんやお婆さんの居らるゝ家庭に育つた子供は、さうでない家庭に育つた子供に比して、其の性情なり態度なりに著しい相違があり、一人息子で育つた子供は、どうしても種々あまり面白くない點があると云ふ事を以て見ても、子供を子供らしく育て上げるには、どうしても子供同志で遊ばせると云ふ事が必要であらうと思ふのであります。

子供を幼稚園に出すと云ふ事に就いては、幾らかの缺點も伴つて居りませうが、然し私は、子供が子供同志で遊ぶことが出來るといふ點だけでも、幼稚園教育の長所を認めて居るものであります。殊に成人ばかりの家庭にある子供にとつては、一層幼稚園教育が必要だと思ひます。

子供同志の感化が最も有効である

また上流社會であると下女や子守などが居ります爲めに、自然それ等の者と遊ぶやうになり、遊べば大抵の場合には、惡い感化はあつても、良い感化のある場合が少いのであります。それ故に幼稚園へ出す出さぬは別としても、家庭に於ては可成、子供同志で遊ばす樣にし、少しは亂暴をしても大目に見て、自由に遊ばしてやるやうにし度いと思ひます。不道德な事、非常に迷惑な事をしない限りは、成るべく干渉をせずに勝手に遊ばして置くことが大切であります。

また、子供が眞似をするにしても、成人の事を眞似るよりも、自分の兄や姉のことを眞似る方が多いので、これは獨り子供ばかりではなく、人間

は總て趣味や、年輩や、境遇などの等しい者から受ける感化が一番効の多いもので、同じクラスに一二の秀才があると、全體の級が自然によくなるといふのも、つまりはこれと同樣の理由に出づるもので、教育の事業、友人同志の感化、むつかしく云へば、兩人が相互に與へる暗示的の影響を利用することによりて最も有効なる成績を擧ぐることが出來ると思ひます。この點から見ても、子供同志の感化を利用して、教師は單に子供の行爲を監督する位地に立つて、出來るだけ子供の自發的活動に任せ、それを適當に指導して行くやうにし度いと思ふのであります。

幼稚園教育の注意すべき點

要するに、子供は飽くまでも子供らしく育てると云ふことが幼兒教育の最も大切な役目であらうと思ひます。さうして幼稚園教育にあつては、前に申したやうな、子供同志を遊ばすると云ふ利はあるにしても、また一方に於て、早くから一定の型にはめ込んで、幾らか窮屈な感じを子供に與へると云ふ弊が、少くとも今の日本の幼稚園教育上にありはしないかと思はるゝのであります、餘り行儀作法などをやかましく云ふと、のんびりした餘裕のある子供を作ることが出來ず、從つて、前から申したやうな子供の子供らしい美點が失はれてしまうのであります。これは大きく考へて見ると、將來の國民性と云ふことにも關係を持つて來るので、偉大なる國民を作るには、子供の時代から、子供らしく、ゆつたりとした、餘り小さな事をこせ〳〵しないやうな育て方をしなければならぬと考へるのであります。（談、文責在記者）

叱るまじ我も昔は雪轉げ　一具

自分の一番よく知つて居る人

英米の有名な小説やストリーやスケッチの中には、子供を中心にしたり或は一部分の材料として使つてあるのが澤山ある。子供といふものを主眼として、どの本にどのやうに子供が書き表はされてゐるかを拾ひ集めて見るのも面白いし、又その子供のしたことを心理的に研究したり、我國の子供と比較研究をしたりするのは、更に興ある仕事と考へられる。茲には專ら材料の一端を紹介する目的で有名な書物の中にある子供の事を大略述べるので、その手始めとして題の如き書物を撰むだのである。

東京女子高等師範學校教授　岡田　みつ

「自分の一番よく知つて居る人」(The one I know the best of all)といふ書物の作者は有名な小公子やセーラ・クルー(Sarah Crew)等の、子供を主題にしたる話を書いたバーネット(Mrs. F. H. Burnett)夫人である。この本も、やはり子供を題として書いたものであるが、子供の心裡に、人生のパノラマが如何いふ風に映ずるかを、いつくかの小品文に書いたので、その子供といふのが想像的の子供でなく、夫人自身が、幼時に世間の事物に觸れた時の印象を記したものである。從つて自傳めいてはゐるが、又單に子供が初めて書物を持つた時とか、死といふものに出遇つた時とかの感じと見てもよいのである。一體子供の心には思想が澤山あるに相違ないが、子供の言語が其を言ひ表はすに不十分であるのと、又子供がそれを思ひ切つて發表しやうとの勇氣を缺いてゐる爲に、外部から大人が如何に興味を以て觀察しても、よく知り難いのであるのを、作者が過去の自分卽自分の一番よく知

つてゐる人を材料として書いたのであるから、讀む人も自分の經驗に照らして、眞に左樣であると合點せらるゝ處が多いわけである。下に興味ある個所を三四拔出して、內容を御紹介することゝする。

一、子供の理屈。

小さい人（書中に主人公たる子供の事を小さい人としてある）が或時赤ン坊を抱きたくなつたと見え、乳母にその旨を告げた。（乳母といふのが名もなければどういふ人柄の人といふ念も無い唯乳母なのであつた）。併し小さい人の心中には、三歳にもならぬ人には赤ン坊に安心して抱かせては呉れぬ者との念は確かであつたと思ふ。小さい人は自分の思想を如何に言ひ表はしたかは分らぬが、下の如き意味の問答をしたものらしい。

「御膝に赤チャンを抱かせて頂戴。

「未だ御小さいから」と乳母が云ふ。

「少さくないよ。赤チャンは小さいが、私は此腰掛けの上で大事に抱ッこするよ。」

「赤チャンが辷り落ちますといけませぬ。」

「乳母のする通りに兩手で抱くから、赤チャンを貸して御くれ。」と小さい人は膝を擴けて待ち受けた。此問答がどれ程續いたか分らぬが乳母が性質のよい女なので、腰掛の傍に膝を折つて白い着物を衣てゐる赤ン坊をソット小さい人の膝に載せて小さい腕に抱へさせるやうにして、實は乳母が聢りと抱いてゐるのであつた。

「ソレ赤チャンが御膝に載りましたよ。」と云つて乳母はよいつもりでゐるが、實は乳母は大に誤つてゐたので、

「デモ私が抱きたいの。」と小さい人が云ふと、

「抱いていらつしやいますよ。」とニコ〳〵して、

「マー成人の方のやうに赤さんを御抱きになつて、大きな御嬢樣ですこと、」と乳母が云ふ。小さい人

は眞面目に、飾らず僞らず。

「抱いてはしないよ。乳母が抱いてゐる」と云つた。で、結局小さい人は赤ン坊を抱きもせず、抱いたと思はせられもせずに濟んでしまつた。而して其時小さい人の心中にはかういふ順序に思想が經過したのである。私は幼いもの故、實際は乳母が赤ン坊を抱いてゐて、而して乳母は私が抱いてはせぬといふ事が私には分らぬと思つてゐる。併し私には分つてゐる。私は小さく、乳母は大きいから赤ン坊は常に乳母が抱くのを知つてゐる。私がその知つてゐるといふ事を乳母に解らせる事は出來ないから、仕方がない。私は赤ン坊を抱きたいが乳母は落すといけないとて懸念する。私は落しはせぬと思ふ。乳母は大人で私は子供である、大人と云ふものは勝手な事をするものである。といふやうなのであつたが、大人の不當の仕打について反抗するやうな念は小さい人の頭腦には無かつた。兎に角、大人は、好き勝手な事をするが、大人の無限の力に對して是非を爭ふ道はないといふ事を、十分に認識してゐたのは確かである。

二、社交上の難問題。

御隣りの奥さんが訪問に來て御出でゝ、小さい人にこんど生れた赤ン坊の事を尋ねられた。其時に小さい人は初めて社交上の困難、卽事實と禮儀とを如何に調和させやうかとの大難題に接して、大に困却した。

「赤さんの御名は何といふの。」と奥さんが尋ねた

「イデス」と小さい人は答へた。

よい御名ですこと！小母さんの宅にも赤チャンがありまして、エリノアといふ名を付けました

いゝ名でせう。」

如何にも簡單な事のやうであるが、之がその大問題なので、如何なる譯か、小さい人はエリノアといふのは良き名と思はれない。心の奥の奥まで

探して見ても、良い名と思はれない。それがその無情ない所以なので、御隣りの小母さんは自分の母さんの友達で、親切な善い小母さんなのに、何といふ不幸か、その赤さんに厭な名を付けた。マア何として、失禮にも冷酷にも、ありの儘を云はれやう、情けなくて堪らなくて、氣の毒な小母さんを默然と困却つたやうに見てゐると、小母さんは小さい人が恥かむでゐると思つたか、又年がゆかぬので分らなくて返事が出來ぬと思つたらしい。が、それは大間違ゐで、小さい人は社交上の問題と鬪つてゐて、何とか結末を付けねばならぬと焦心つてゐたのである。

「良い名でせう、御好きでせう。」と小母さんは頻りに優しくいつた。小さい人は、切な氣な眼で小母さんを見てゐた。心に信ずればとて、不快の事を言ふことも出來ず、さればとて思ひもせぬことを言ふわけにはゆかず、終に中を取つてどちらつかずに、

「アノー……アノー……イデスといふ程……良くは……ない。」と云つた。大人の連中はドッと笑つて、小さい人の頭を撫でたり何かして可愛がつたが、誰一人この子供が思考してゐたと思ふものは無かつた。

三、巡査の戯言。

公園に草地があつて、其處の立札に、墨黑〳〵と「この上を歩むべからず。犯すものは告發せらるべし」としてあつた。公園内の巡査が威嚴しく巡回するのは、犯す者を捕へる爲であると聞いて、小さい人は萬一どういふ事があつて自分が禁を犯して捕へられたらばどうしやうと思つては、身の毛も彌立つやうに感じてゐた。處が、或日の事四歳の小さい人は、恐ろしい巡査と打並んで草地の傍の共同ベンチに坐つてゐた、乳母と巡査とが馴染になつてゐたので、乳母が小さい人を巡査

に托して一寸何處ぞへ行つたものと見える。小さい人はベンチに足を前に投げ出して坐つてゐた。而してベンチの後ろの横木は高くて小さい人の頭はそれには達せぬのであつた。それで不圖草の上に落ちはせぬかとの恐怖心が出、それが嵩じて、その恐い巡査に質問する氣になつた。幾度も〳〵口を明いて尋ねかけて、やッとの事で、

「此草の上を歩くと、あなたその人を捕へるのですか。」

「ア、捕へますよ」と巡査は、小さい人の問を興ある事位に思つたのである。

「草の上を歩けば、誰でもあなた捕へなければならないの。

「そうです。誰でも」と職務的の口調で、巡査は云ふ。

「もし私がしても？　と小さい人は息を喘まして哀を乞ふやうに尋ねた。

「そうです。牢へあなたを入れなければならない。」

「でも」と口籠りながら、「もし態とでなく……そうなつたら？」

「やッぱり牢へ入れるのです。知らないで爲るなんといふ事はないから。」

小さい人は、後ろを振り向いてベンチを見た。横木は高くて支へにはならぬ。

「でも……でも……私こんなに小さいから、ベンチの背後から落ちるかも知れない。草の上に落ちても牢へ入れるの？」

「そうです。抱き上げて直ぐ牢へ連れて行く。

小さい人は顏色を變へたに相違ないが。無言で坐つてゐた。その時聲を上げて泣き出さなかつたのは、その頃から品位を保つとか覺悟を決めるとかいふ念の基礎的觀念があつたと思はれる。併しこの一事件は眞から恐ろしい事であつたので、夜中に目を覺して、床の中で慄へた位である。

四、始めて悪い事をした時。

或る日、小さい人が、エマといふ御友達と遊んで居た處が、如何なる加減か急に饑くなつて來たので、

「マア御腹が減つた！もし五厘あればあなたに賴んで、御菓子を一つ持つて來てもらふけれど。」

と小さい人は云つた。（エマの母親は飲料や菓子の小店を出してゐたので）此時どうして乳母が傍に居なかつたか、又何故宅へ歸つてパンでもらはなかつたのかは分らぬが、エマは商賣の事は、見聞きしてゐて大膽なので、

「御菓子を掛けで買へばいゝ。うちの母さんはあなたへなら貸すから。」

と云ふ、小さい人はそのやうな思ひ切つた事は夢想だにもしないので、驚ろいて息を喘ませてゐるとエマは、

「構はないワ。御菓子をもらつて置いて此次御金の出來た時に拂へばいゝ、左樣する人澤山あるヨ、母さんの處へいつてもらつて來て上げませう。」

何といふ大膽な、危險な、不都合な目算だろう！若し御金が手に入らなかつたらば、家名を汚すことになる！と思つて、小さい人は、

「うちの母樣は御怒りになるの。そのやうな事をさせては下さらない。」

「それなら話さないで置けばいゝ」とエマは平氣でゐる。而してエマの此平氣な當然なといふ態度が、小さい人の心を動かしたものと見え、とう〳〵御菓子をもらつたのである。が、物事を誇大して考へるが子供の通性故、子供部室の規定を破つたのは、子供心には大罪を犯した事になるので、小さい人は、一口御菓子を口に入れはしたが、その餘はどうしても食べられなくなつた。さりとて、小さい齒形の付いた半圓に食ひ取つてある菓子を

返戻ことも出來ず、この苦悶と屈辱とを打明けて話す人もない、而してその一片の御菓子の跡始末をするに殺人者が根跡を殘すまじと苦心するのと同じ程の心遣をして、食堂の戸棚の中へ納めたその後、夜となく晝となく、良心の呵責が續いて自分には幾年かの間の苦腦の如くに感ぜられたが實際は二三日の事であつたのであろう。而してその苦しい所は、母親に叱られる恐れではなく、道德的の苦痛なので、母さんは貴婦人であるのにその娘の自分は借り買ひをして、家名に傷をつけた。その罰として、假令雷が落ちて自分はこの儘死んでも誰を怨むことも出來ないと思つた。この心痛がもつと續いたらば、小さい人は、戸棚の御菓子と共に、溶けて崩れて滅亡し去つたかも知れないが、煩悶の極、二つ年長の兄さんに打明けた。どういふ場合にどういふ風に話したか記憶はないが兄さんは宏量の男兒で、しかも御小遣錢を持つてゐる資產家なので、菓子屋へいつて借錢を拂つて來てくれた。その時の兄さんの偉くて有難かつた事！並の人間ではなくて、御話の中に出て來る偉大の英雄としか思はれなかつた。之が六歲の時の事であつた。

五、欺かれた事。

小さい人が七歲の時で、或る夏の夕方、御友達と二人家の近くの四ッ角の邊をブラ〳〵歩いてゐると、年寄つた上品な婦人が、何か抱いて此方彼方と運動をしてゐる。行き違ひ樣に見ると、抱かれてゐるのは、生れたての赤ン坊であつた。小さい人は赤ン坊狂で、近所に赤ン坊の生れた家があると、態々尋ねていつて見せてもらふ程の熱心なのであるから、此際も、その顏が見たくて、行きつ戻りつして友達と二人でその婦人に物言ひたげにして居た。すると婦人（多分は乳母であつたらう）もニコ〳〵して「御覽になりたいの」と言

つてくれたので、之に勇氣を得て、「エーどうぞ」といふと白いレースの顏被を上げて、赤ン坊の顏を見せて呉れた。

「赤さん御好きですか」とその婦人が尋ねた。

「何よりも大好き。」

「御人形よりも？」

「もう〳〵何百倍も。」

「でも御人形の方が泣きませんよ。

「私なら赤さんを大事にしますから、泣きませんよ。」

「あなた赤さんが欲しう御坐んすか？」

「エーもう赤さんが、もらへるなら私何でも上げます。」

この時、小さい人と御友達とは、婦人を中央に挾んで歩いてゐた。それ丈でも赤ン坊と多少の連絡が出來たやうに思はれた。

「この子をもらひたいと思ひますか」と婦人は眞顏でいふ。

「下さるの！まさか！

「上げてもいゝのです。よく大切にして下されば」

「エー！」嬉しくもあり、疑はしくもあるので、

「その赤チャンの母さんが、御許しにならないでせう。」

「下さるでせうよ」と一寸考へて落付き拂つて、

「澤山赤さんがあるのですから。」

小さい人は息を深く吸入れた。赤ン坊があり餘る」もしさうだつたら、嘸よかろうと思つたが、心密に、この婦人を疑はぬ譯には行かなかつた。

「あなた私に戲つてゐるのでせう？」

「イーエちつとも。赤ン坊が澤山あると厄介ですもの、若し此子を上げたらば如何なさる？」

「毎朝身體を洗つてやつてねと」小さい人の口からは、言葉が轉び出て來る。赤ン坊の世話が良く出來ると信じて貰ひたくて。「御風呂に入れて、大

きな柔かい石鹸で洗つて……粉をはたいて……着物を着せたり脱かせたり寢させたり……御部室の中を抱いて歩いたり……膝の上で歩かせたり……而して乳を飲ませるの。」

「牛乳が澤山要りますよ。」

「いゝの、牛乳屋から母さんに取つて頂くから。」

「母樣はキットそうして下さるでせう、左樣すれば欲しいだけ飲ませて、私と一所に寢させて、玩具を買つて――」

「ほんにあなたよく御存知ですネ。それでは差し上げませう」と云ふ。

「この御子の母樣が手放して？眞實に？」

「エーこの御子の母樣は、御手放しなさいますとも、ですが今夜は連れて歸つて、あなたが欲しいと仰つたから、若上げる御約束をしましたと御話して、而して明晩上げますよ。」

翌日の夕方正七時十五分に二人はある町の角で、その婦人に遇つて、其處で子供と、着物の包みを受取る事に約束が出來た。

子供の心中には、大人に對する崇敬と信頼とが勢力を占めてゐるので、その智あり力あり威ある大人が虚言を吐くなどゝ云ふ事は、到底信じ得べからざる事で、小さい人はこの上品な年寄つた婦人の言を疑ふは、神を瀆すよりも悪い事と考へた

翌日一日は課業も手に付かず夢中で暮らした、母樣は、それは戯言だからと仰つても、小さい人は、その婦人が眞顔で笑ひもせなかつたし、戯れですかと問ふたらば、然らずと答へたし、赤ン坊の親が困りはせぬかと念を推しても、あり餘る程に赤ン坊がある故構はぬと言ひましたとて、聽き入れなかつた。

さてその時刻が近づいて、二人は約束の場所へいつて、その邊りをぶら〳〵歩いて待つてゐた。十分毎に相談をしてどつちかが勇氣を鼓して、通

り掛りの人に時間を問ふた。約束の七時十五分になつたが、婦人は見えない。

「赤ン坊が寐てゐるのかも知れない。目の覺める迄待つてゐるのでせう。」

又二人は歩き出した、心持ちでは何時間も、何ケ月も、何年も歩いた氣がしたが、寺の時計が鳴つたのを、二人が數へると八時である！顏を見合せて二人は。

「來ないのでせうか。

「でも來るといひましたよ。若し來なければ虛言をいつたのネ！

とはいへ、虛言を吐いたなどゝ假に思ふだけでも失禮である。まさかその樣のことのある筈がない自分達が何か時刻とか町の角とかを間違へたのであの年寄りの惡意とはしたくない。

又二人は歩いた。話し合つた、見守つた、やがて八時半となつて、もう床に入る時間をさへ過したので、この上待つわけにはゆかず、二人は歩を停めて、

「とう〳〵來なかつた。

「來るといつたのに。

「私だちが横町を間違へたのでせうよ。

「さもなければ、赤ン坊の母樣が、否だと仰つたのでせう。可愛らしい子ですもの。

「而してあの人が言ひにくるのが厭なのでせう。

「いつか又遇ふかも知れないのネ。

「さうネ。では歸りませう。

正直な二人は、婦人が欺いたとは思はないで、毎夕四ツ角を歩いては待つてゐたが、その赤ン坊も其婦人も二度と出て來なかつた、斯の如くにまざ〳〵と信じ切つて、奇麗に騙される人といふてはラヽ樂園から此の世に來て間のない子供といふ者の外にはない。

子供の病氣

——一般の豫防及治療法——

醫學士　石塚保吉

消化器病の豫防

一般に豫防法と云ひましても、勿論病氣によつて其の方法も自ら異つて來るのでありまして、消化器病の豫防と呼吸器病の豫防とは、どうしても違つた心掛けが要るのであります。消化器病の豫防に就いては、これまで數回に渉つて御話をした子供の營養法其の他の注意を嚴重に守つて、保育して行けば、それで一般の豫防が遂げられて居る譯であります。もう一度簡單に繰返して見ますると、例へば哺乳兒であれば哺乳兒の章で御話した方法に從つて、最も適當な營養分を撰んで適當なる時間に、適當なる分量を與へること、其の他器物の消毒を嚴重にすること、子供の口内を常に清潔にして置くといふやうな種々の注意を正當に行つて居られゝばよいのであります。

季節の上に於ける注意としては、一般に消化機病は冬には餘り大したことがなくて、春から夏にかけて多く起るものでありまするから、此の期に當つては殊更に注意を深くし、牛乳の消毒、器物の洗方等は勿論、營養品の精撰に心して、常に新鮮なるものを與へることが大切であります。

少し大きくなつた子供になると、赤痢や小兒コレラ等の酷い病氣に罹り易いものでありまするから常に食べ過ごさないやうに注意せなければなり

ません。殊に赤痢などは壯健にまかせて食べ過ぎた時に起るのが普通なのであります。

もう一つ特に注意すべきことは、小さな子供を早く生長させようと考へるのが、親としての一般の慾目であります。その爲めに考へもなく、無暗に物を食べさせたり、卅分置きにお乳を與へたりする爲めに、却つて子供の身體を害ふといふやうな場合が多いのであります。この間も斯ういふ實例があつたので、生れて半年も經たぬ子供に一日一升五合の牛乳を與へた爲めに、子供の胃を毀したといふ寧ろ無智に近いやり方をされて居たのであります。これは非常に注意をせなければなりません。

いま一つ心得て置くべきことは、大抵の母は子供が泣くと、それが何ういふ原因であつても、單にお乳をほしがる爲であると解釋してしまつて、直ぐにお乳を與へる。成る程お乳を與へれば他の原因の爲めに泣いて居る時でも、一時は其の爲めに止ります。然し其爲めに却つて他の病氣を重くするのであります。例へば胃腸が痛む爲めに泣くといふ場合に、お乳を與へそれで安心をして居ると、だん〳〵病勢を強くするばかりであります、勿論、營養品を與へることは必要でありますが、過ぐるよりは足りぬ方が寧ろ增しであります。それ故食物は常に少いと思ふ位の程度に與へて置くべきであります。

呼吸機病の豫防

次には呼吸機病の豫防でありますが。これも前に詳しく御話して置きましたから其れに則つて、十分の注意を施して行けばよいのであります。たゞ、此の病は夏には餘りなくて、秋から冬にかけて寒い時分に起るものでありまして、子供を寒さにあたらせないと云ふことが、其の最も主なる豫防法なのであります。と云つて、無暗に溫くさせ

て置きさへすればよろしいやうに考へて、夏の中に綿入を着せるやうなことがあつてはなりませんさう云ふ厚着は寧ろ風を引く因となるに過ぎないのであります。

一體に呼吸機の病氣といふものは、外の空氣の溫度に激變がある爲めに起るもので、夕方に室の戸を開け放して、子供を寢させて置くといふやうことが其の主なる原因であります。成人であるし夕方になつて少しく寒い風に觸れても風を引くといふことはありませんが、身體の薄弱なる子供は直ぐに其の害を蒙るのであります。又た着物さへ澤山に着せて置けば寒い處へ出しても差支ないと多くの人は考へて居らるゝやうですが、それは大なる誤りであります。幾ら澤山の着物を着せて置いても、外の空氣が冷ければ何の豫防にもならぬばかりではなく身體の外側が蟄くつて、體内に入る空氣が冷い爲めに、却つて風をひく度合が多くなるのであります。

けれども、寒い風にあてゝはならぬと云つて、餘り幾日も室の戸をたて込めて置くと、室の中の空氣が穢れて來る爲めに、呼吸機を毀すやうになるのでありますから、毎日適當なる時間に室の窓を開け放して空氣の流通をつけることを忘れてはなりません。また子供を遊ばするには南向の、光のよく入る室で遊ばせ風がなければ室を開けて置くやうにせなければなりません。

傳染病の豫防

次に最も多いのは傳染病であります、勿論、これは其の病毒が體内に入つて來なければ起らないのでありまするから、傳染病の流行する時期には家に居て外と交通をせなければ傳染することがありません。殊に百日咳、痲疹等は學校、幼稚園其他の群集の中へ行つた時に感染するのが多いのですから、さういふ病の流行つて居る時は、其の病

に罹つて居る人に注意するは勿論、成るべく外へ出さないやうな注意が必要であります、傳染病の中で、チブス赤痢等は口から入るのでありますから、食物の方を嚴重にし、また疑はしい病者に接した時は嚴格に消毒をすることを怠つてはなりません。

子供が最も多く罹る病氣は、大低、上に掲げた數種の病でありまして、神經系統に屬する病氣は極めて稀であります。從つて其の豫防法の如きも素人としては適當な手段がないと云つていゝのであります。

療法一般

次に子供の病氣を治療する上に、成人の病氣に對する時と、其の取扱の異なる點を申上げて見ようと思ひます。

子供の病氣に就ては、一般の規則として、出來るだけ食餌其他の攝生法を採り、藥劑の治療を成るべく少くするといふことであります。たゞ止むを得ざる場合だけ單に補助として藥劑を用ふるに止め、また用ふるにしても、極く單純で無害のものを選び、分量に就ても細心の注意が大切であります。劇藥の如きは可成に排斥せなければなりません。それ故、發熱したからと云つて、直ぐ熱ざましを與へたりするのはよろしくありません。寧ろ冷罨法を施す方が適當であります。そして成るべく發熱の原因を調べて、其原因に對する手當を致しますれば熱は自然に引くものであります。例へば腸に不消化物が溜つた爲めに發熱をする場合であれば、下劑を與へて、それを排出せしむれば自然と熱が引く類でありまして、其他或はお湯に入れ、或る罨法を施すなどして、新陳代謝の働きを強め、或は食事に注意し、新鮮な空氣を呼吸せしめ、入浴其の他の方法で皮膚を清潔にするといふやうな種々の手當に依りて治療を計るのでありま

す。

斯ういふ風で、子供が病氣に罹つた時に第一に醫者のする心配は、先づ原因に對する手當をするのは勿論でありますが、其他子供の食事に關して適當なる注意を與ふること、子供に新鮮な空氣を呼吸せしめること、子供の身の廻りを清潔にすること等でありまして、殊に慢性の病氣にあつては都會に居る子供なれば直ぐに山間や海岸の靜地に移らしめて、永く新鮮な空氣を與へるやうにするのであります。病氣によつては場所を換へたと云ふことだけで治る場合も多いのでありまして、日本などでは、まださういふ進んだ施設も出來て居りませんが、西洋では靜閑の地に、病氣の子供を預つて、恢復に至るまで養つてやると云ふ養生院が、一の公共團體として立派に立つて居るのであります。そして其處では極く僅の費用で永く適當な養生を施すといふばかりではなしに、永く止まつて居る子供に對しては、相當の教育を施しでやるだけの十分な設備が出來て居るのであります。近來は日本に於ても、だん〳〵此の種の機關の必要を認められて來た爲めに、京都の醫學大學では、慢性病兒の爲めに娯樂室や、教育を授ける樣設備されて居るさうであります。斯ういふ機關がもつと澤山に建設されて、其の設備も具つて來ましたならば、我が子供の爲め非常に幸福な事柄であらうと思ひます。以下特種療法に就き少しく御話し致しませう。

食餌療法

腸胃の病氣に對する最初の手當は、前申したやうに、先づ食餌療法から始めなければなりません母のお乳を呑んで居る子供でありますと、子供が病氣に罹つても大低はお乳を止める必要はないものですが、それでも時によつて一時は是非止めて他の食物を與へる必要のある場合があります。一

般の母は、このお乳を止めるといふことを非常に嫌ふ傾があるのでして、自分の經驗によりますと未だ嘗つて、反對なしに此の要求を容れられた事がないのであります。殊に母乳を止して人工營養に更へる場合の如きは、それに反對する母が一番多いのであります。これは素人としては無理からぬことで、普通に營養分の多い母乳を止して、それの少い人工營養を與へるのですから、ちよつと考へると非常に愚なことのやうにも思はれるのであります。けれども、幾ら良い食物でも病氣に依りましては有害に働くことも往々にしてあるもので、殊に重き腸胃の疾患にて病勢を弱らしめる爲めに、一時他の食物に更へる必要のある場合の如きは、是非とも醫者の命に從ふことが大切であります。それを詰ちぬことに理屈をつけて、其の命に反對して居ますと、病氣が重くなるばかりで、子供を害ふ場合が生ずるのであります。これは天然の營養を止める場合ですが、人工營養を用ゐて居らるゝ子供にあつては、度々これを行ふ必要があるのでして、お乳の分量を攝するのを、醫者の方では、「休息療法」と云ひ、全部の營養を止めるのを「饑餓療法」と申して居ります、そして場合に依つては、これが唯一の療法で、これをやらぬと命にかゝわる場合さへも二三種はあるのです。而も此の饑餓療法をとる場合には、殆ど總ての人はこれに從はないので其の爲めに子供の命を失ふといふ例が非常に多いのでありますから、場合によつては、さういふ療法も手段として施さねばならぬといふことを知つて置くべきであります。

素人療法の危險

子供の營養品を取り換へたり、分量や時間を定たりすることは、其の病氣の種類や、病勢の程度によつて、それ〳〵違ふものでありますから、こゝに一々御話することは出來ません。其の場合に

應じて小兒科醫の指導に俟つやうにする外はありません。又、子供には成るべく藥品療法をさけると云ひましても、絶對に藥を用ゐないと云ふ譯にはゆきません。それも其の機に應じた處置をとるべきでありまして、こゝに一定した法則を申し上げるのは困難でありまするし、また素人としてはさういふ手當を知らない方が却つて安全であります。醫學上の知識のない素人療法程世に危險なものはないので、殊に子供に對する素人療法は最も恐るべき事柄であります。田舍の醫者であつて、小兒科の事に明くない人が、よい加減に藥を盛つた爲めに、子供の身體を害ふと云ふやうな例は極めて多いのであります。成人であれば少し位の間違はあつても、左程大した變動も起りませんが、外部の刺戟に鋭敏な子供の機關は、ちよつとした間違の爲めに不測の害を蒙るのであります。それ故、小さな子供に賣藥を呑ますなどは殊の外よくないので、その爲めに病を重らして、初めて醫者の處へ來ると云ふのが多いのであります。

水治療法

普通の人が、何の害にもならぬと思つてやる手當で、非常に危險な事が多いのに反して、非常な危險事として排けて居る手當に、却つて有益な、而も何等の害を酵さない手當が澤山にあるので、卽ち茲に云ふ『水治療法』の如きは其の一であります。

水治療法と云ふのは、熱のある子供に、藥を與へることをさけて、水の中に子供を入れてやるのであります。これは日本では餘り行はれて居ない療法であります爲めに、熱のあるのに水の中へ入れるのはよくない事のやうに思はれて居ますが、決してさうではないので、子供が呼吸困難に陷つた場合の如きも、お湯の中へ入れて、水をかけて深呼吸をさせると、それだけで大低は恢復するの

であります。

其の他、皮膚病の子供や、皮膚の赤くたゝれるやうな子供はお湯に入れて、清潔にした上で、藥を塗つてやることは勿論でありますが、もう一つ早産兒であつて自ら體溫をとることの出來ぬ子供には、お湯に入れて溫めてやることが最もよい手當であります。着物や湯たんぽでは溫度のとれない子供であつても、湯に入れてやれば溫まるのであります。

發汗療法

次に「發汗療法」と云ふのがあります。これは肺炎、消化機病等の重い病に罹つて、酷く弱つて居る子供を、少し暑いお湯に入れて充血させた上汗の出る位に溫めてやるのであります。これは非常によく効くことがあるので、殊に赤痢などの中毒性の病氣や、腸毒が體内に廻つて腦を侵して居るやうな危險のある場合に、この發汗療法をやると汗と共に其の病毒が排出されて、恢復を見ることが多いのであります。これを一層強くして用ゐようとするには、湯の中に芥子を入れて浴びさせることであります。

其の他は發熱した場合に行ふ濕布療法や、呼吸機を害した時に行ふ吸入療法なども、是非行ふべき最好の手當でありまして、人によつては、吸入などは素人がやるのはいけないと云ふ論もありますけれども、應急の手當としては別に害のあるものではありませんから、やる方がよろしいのです勿論、そればかりに便つて安心されて居ては困るけれども、補助的な手當としてはよろしいのであります。其の方法等に就いては、一般に知られて居ることですから、更めて說明の要を見ないことゝ思ひます。

胃腸の洗滌法

もう一つ小兒科で用ふる有効な療法は、胃の洗

滌法であります。これは消化不良の時に行ふので成人に對しては常に行はれて居る事ですが、子供に對してはより以上の効力のあるものでありますこれ等も多少療法が變つて居る爲めに、素人からは恐れられて居るやうですが、何も危險な事はないので、やつた後は却つて心持がよくなり、治療の期間を縮めることが出來るのであります。それから腸の洗滌の如きも非常に効のある療法で、殊に疫痢や赤痢等には最もよく、殆ど唯一の療法と云つてよろしいのであります。何故斯ういふ洗滌をやるかと云ふと、腸に病毒が溜つて居ると、其の中に黴菌が生じそれが腦を刺戟して、腦膜炎を起し危險に陥るといふことがありまするから、成るべく早く是れを排出させる爲めであります。

食鹽注射

小兒コレラ等で盛に吐き下しをした爲めに、體内の水分を排出してしまい、外から之を補つても保ないと云ふ場合には『食鹽水の皮下注射』をやります。これは成人にもやる療法ですが、子供には最もよく効く方法で、殊に中毒性の病毒が體内に廻つて居る場合には、この療法をとる外はないと云つてよろしいのであります。素人は此の療法を非常に嫌つて、仲々行はせないものでありますが、消毒を嚴重にさへすれば、決して恐るべきものではないので、有益無害な方法ですから、これも知つて居て醫者の勸めに從ふやうにせなければなりません。

腰推穿刺

腦膜炎に侵されて居る場合には『腰推穿刺』と云ふのをやります。これは脊髓に針をさして、腦の中に溜つて居る腦脊髓液をとるのであります。これに依つて腦膜炎の治る場合もあるし、また其の液體をとつて見ると、其の病容を知ることも出來るのであります。つまり一は治療そのものゝ爲

めに、一は診斷の助けとして此の方法を用ふる場合があるのであります。それ故、總て斯ういふ變つた療法に對しては、其の醫者を信じて、恐れずに適當の處置を受くるといふ心掛けを平常から持つて居らるゝように仕度いのであります。さうでないと、折角、醫者が適當の手當を施さうとしても、親達が聞き容れない爲めに、見す〳〵子供を死地に陷らしむるといふやうな結果を往々にして見るのであります、素人としては、六ケしい病氣の手當を知つて居たり、不完全な手當法を知つて居て、それを勝手に行ふよりは、先づ斯ういふ手當が醫者によつて行はれる場合の有益無害なることを知つて居られて、それに從ふと云ふことが、もつと大切な事ではあるまいかと思ふのであります。

○醫學博士加藤照麿氏述『育兒法』

家庭にも幼稚園にも、幼兒の衛生に關する智識ほど必要のものはありますまい。子供の眞の幸福のためには、先づ何よりその身體の正當たる取扱から始められなければなりません。『育兒法』は此の必要な智識を與ふるものであります。殊に本書の特色たる平易と實際的とは幼兒の衛生及諸小兒病に就て總ての讀者に最も適切便利なる具體的知識を與へるように苦心せられてあります。東京市小石川區雜司谷町婦人之友社發行定價金八拾錢)

○第廿八回心理學通俗講話會

一、十月十二日午後二時より

一、法科大學廿二番教室にて

婦人問題　文學士　鵜飼祐弐君

兒童觀察より觀たる家庭教育　東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎君

第十九回京阪神三市聯合保育會提出遊嬉及歌曲

（神戸市保育會の部）

おだんご

（ヘ調二拍子）

3 2 1 2 | 3 3 3 3 3 0 ‖ 5 5 3 2 2 | 3 3 2 1 | 2 2 1 2 | 3 0 |
オ ダ ン ゴ | ツ キ マ セ ウ ‖ コ ノ ダ ン ゴ ハ | オ ホ キ イ | オ ダ ン ゴ | デ

5 5 3 2 | 3 2 1 | 2 2 2 2 3 2 | 1 0 | 3 2 1 2 | 3 3 3 3 3 0 |
モ ミ タ ロ | サ ン ノ | オ ベ ン ト ニ シ マ | セ ウ | ツ レ ナ ラ | ツ ク リ マ セ ウ

2 2 2 2 | 3 2 1 0 | 3 3 2 1 | 3 3 2 1 | 2 2 | 1 0
オ テ ツ ダ イ | マ セ ウ | オ ダ ン ゴ | デ キ マ シ タ | 一 二 | 三

おだんごつきませう
おだんごつきませう
このだんごは
桃太郎さんのおおきいお
それならつくりましせう
おだんごできました

一 二 三

方法

赤旗ヲ持チシ者ト白旗ヲ持チシモノトヲ圓ノ中ニ立タシム

（圓ノ者モ中央ノ者モ杵ヲ持チシ形ヲナシテ團子ヲツク眞似ヲナス）

おだんごつきませう〜〜

（兩手ヲ擴ゲテ大ナル形ヲ示ス）

このだんごは大きいお團子で

（左ノ腰ニ兩手ヲ宛テ、お辨當ノ形ヲ示ス）

桃太郎さんのお辨當にしませう

（團子ヲ丸メル形ヲナス）（同　上）

それならつくりませうおてつだいしませう

（一同立チ上リ）（手ヲ拍チ一二三ニテ右向ケヲナス）

一二三

おだんごできました

（夫ヨリマーチニテ中ノ二人モ圓ノ者モ急行進ヲナシ樂器止メバ直チニ赤白ノ旗持兩方ニ分レ走リ場所ヲ定メテ立ツ女兒ハ赤旗ヲ持チシ者ノ前ニ男兒ハ白旗ヲ持チシ者ノ前ニ整列セシ方ヲ勝トス

頭字遊び

（子拍四調ヘ）

前奏

右手 1 3 5 1 3 5 6 5 0 | 3 2 1 7 6 6 5 0 | 1 3 5 1 3 5 6 5 0 | 3 2 1 7 6 5 6 7 1 0

左手 5 5 5 5 / 3 3 3 3 / 1 1 1 1 | 5 6 5 5 / 3 4 3 3 / 1 1 1 1 | 5 5 5 5 / 3 3 3 3 / 1 1 1 1 | 5 4 3 3 / 3 5 1 1 / 1

1 1 1 3 5 6 5 0 | 3 2 1 3 2 0 | 1 1 1 3 5 6 5 0 | 3 3 2 2 1 0

メクラノトモノ | シラヌマニ | カクレタモノガ | ヒトリアル

カシラニ○ノツ | ツイタヒト | ソノナハダレデ | アリマスカ

第一

一めくらの友のしらぬまにかくれたものがひとりある
二かしらに○の字ついた人その名はたれでありますか

第二

一かしらに○の字ついた（花もの）その名は何でありますか

方法

（一）初メニ圓ヲ作リ其ヨリ一人ノ幼兒ヲ圓ノ中央ニ目ヲ隱クシテ居ラシメ保姆前奏ヲナス其時圓ノ幼兒ハ皆屈テ靜ニシ圓內幼兒ノ中ヨリ一人ヲ撰ビ隱レシム前奏終レバ圓ノ幼兒一同ニ立チ上リ左記「めくらの友のしらぬまにかくれたものが一人あるかしらに圓の字（隱レタル幼兒ノ姓又ハ名ノ始ノ一字ヲ歌ノ○ノ處ニ入ルヽナリ）ついた人其名はだれでありますかと歌ヒ終リタルノ盲目トナリシ幼兒ハ目ヲ開キ立チ上リテ隱レタル人ノ姓名ヲ當ツルナリ若三度歌ヒテモ尙當テ得ザレバ禮ヲナス當テシ時ハ拍手ヲナス

（二）始メ何ニテモ當テサセントスル者ノ種類ヲ云ヒ置キ圓ノ幼兒凡テ目ヲ隱シ中央ニアル一人ノ幼兒ハ立チ去リテ花又ハ玩具模型何ニテモ當テサセント欲スルモノヲ持チ來リ左ノ如ク歌フ

（かしらに○の字ついた（花もの）その名は何でありますか）ト周圍ノ幼兒ハ一齊思フ所ヲ答ヘ當レバ拍手ヲナス

以上

幼兒保育の新目標

（京阪神三市聯合保育會に於ける講演大要）

倉橋惣三

一

幼稚園のことに就きましては、私の淺い研究を以てしましても、實に澤山の問題があるやうに考へられます。他の種類の教育の問題は既に色々研究を積まれましてそれ〳〵適當なる解決、及び施設を與へられて居りまするに拘らず、幼稚園問題に限りましては、殆ど全部未決と申しましても宜しいやうに思はれます。是れは我國に於てのみではなく、世界に於ても然う云ふ風な感じがするのであります。今日は態々東京からお招きを戴きまして、斯く皆樣と御一緒になつたことでありますから、御相談いたしたい、又伺ひもしたい問題は殆んど盡きないのでありますが今日は殊に幼兒教育の新しい目標といふ大きな題を差上げて置きました。是れは幼稚園問題の一部分に過ぎないやうな問題でもありまするが、併しながら又一方には總ての幼兒教育の問題の或程度に於ける根本問題にならうかと云ふやうな考も持て居るのであります。暫く此の問題に就て御一緒に研究して見たいと思ふのであります。

總て我々の致します仕事が確定したる目標目當を持たなければならぬと云ふことは申すまでもないことであります。ところが竊かに觀まするところに依りますと幼稚園教育に就ては長く此の事に從事せられる方は別としまして、他の方にして新らしく此の教育に從事の方や、局外から幼兒教育

を御覽になりまする方々の中には往々にしてたゞ其の教育の對象となりまする兒童の年齡の小さい爲めに、仕事そのものをも比較的輕いことのやうに思はれまして、敢て一個の確定したる目標を立つると云ふやうなことは殆んど更めて考へるを要しないことのやうに思はれて居る方も少なくない觀があるのであります、併し私共の考に依りまするとと、教育を受けまする被教育者の年齡が長じまして、所謂教育の程度が高くなるに從ひまして、之れに與へられて居る學者の研究や、或は當局の綿密な指定に依りまして、其の教育の目標、又其の教育の範圍のみならず毎日從事しまする教案、授業時間の配當のごときに至るまで、殆んど外から規定せられて居ることが多いのであります。然るに幼稚園の教育に於きましては斯る規定が餘程自由になつて居ります。殊に近年は設備の上の規定まで大層自由にされました。此事は幼稚園教育と云ふものが他の教育とは全く其性質を異に致しまして、其の性質上餘程自由を與へられるべき筈のものであると云ふところから、左樣にされて居るのであることも疑ひなき次第でありますが、又一方には幼兒教育などに對しては格段なる規定を與へる必要もあるまい、マア善いやうにしたら宜からうと云つた風に充分明かなる意識がない爲めではあるまいかと云ふことも竊かに考へられないでもないのであります。若しそうならは是れは飛んでもない誤りでありまして、未だ教育の分科が充分に分れず、何を教へ何を如何に與ふべきかと云ふことに就いて一々巨細の規定のない幼兒教育に就きましては切めて明確なる根本的の目標を持つと云ふことが最も必要であります。若し是れがありませぬならば、幼稚園教育は保姆の方のお骨折と幼兒の快活なる活動とに依つて、毎日々々或る時間が過さるゝだけで、それが實際何をして居

のか分らないと云ふやうな漠然たることに、自他ともに陷るの怖れがあるのであります。故に其の教育に從事しまするところの人、之れを監督しまするところの人々、及び之れを傍らより批評し、又は觀て居りまするところの人々が、互ひに明らかなる目標を持ちませぬならば、其の熱心や尊敬すべく、其の勞力や實に偉大でありまするに拘はらず、其の得來りまする成果と云ふものは、殆んど區々若しくは斷片的になりまして、何を幼稚園が與へつゝあるかと云ふことに就いて、人々をして竊かに疑惑を懷かせるやうな殘念なることにもなり兼ねないのであります。

今日お集りの方々に向ひまして、幼稚園教育の必要を說く必要は毛頭之無き事であります。併し私は常に此の幼稚園教育に熱心だと申される方に向ひまして、いつも試みに一ツの問を發して見るのであります。卽ちあなたの從事して居られる幼稚園教育と云ふものが有益であり大切であり、我國の兒童に多大の貢獻をして居ると云ふ事は固より論を持ちませぬが、假に今我國今日の社會から幼稚園教育が全部取去られましたならば、幼稚園教育がある時と果して如何なる違ひを國民全體の上に與へるのでありませうかと云ふ問を提出して見るのであります。さうしますと多くの方は極めて漠然たる答しかなされないのであります。卽ち其の自ら從事して居る仕事が、我國の國民全體の現在及將來に何う云ふ關係を有つかと云ふことに就きましては、其意識が甚だ漠然として居ることがあるのであります。

二

子供を教育致しまするには色々な目標が立ち得ますが、夫れは又色々の特別な要求から作らるゝものであります。第一は其の地方の特別なる要求であります、譬へば工業盛んなる土地であります

るならば、其の工業の盛んなる土地に於て將來大人となつて都合の宜いやうな教育を子供へ與へる、漁業の盛んなる土地に於ては、將來漁業に從事するに適當なるやうな教育を子供に與へる、其他其の社會の特殊なる要求に基きまして、それぞれ教育の目標を定められるのであります。第二には其の社會の中に於て、又或家庭の特殊の要求に依つて目標が定められます。私の家庭では斯う云ふ風に育てる、あなたの家庭の子供は何うであるか存じませぬが、私の方は斯う云ふ目的を持つて居る家庭でありますから、斯の如き教育の目標を立てると、斯う云ふことに依つて目標が立てられます。第三には社會及び家庭に於て又特に兒童そのものゝ要求に基いて教育の目當が定められます。斯くの如き社會、斯くの如き家庭に於て斯う云ふ教育を與へたいと思ひますけれども、而も其の子供の個性の如何に從ひまして、教育の目標に多少の變化を造らなければならないと云ふことが出て參るのであります。斯くの如く教育の目標の細かい點になりますと、各人色々でありますが、併し是等は特殊なる教育の目標の立て方でありまして、夫等を大きく總括して居りまするところの教育の大目標なるものは一國の其の時代に於ける要求と云ふことに基かなければならないのであります。而して我國の兒童に要求する大目標は昔と今とに變りがありません、是れは新目標などとしては論ずるを要しないのであります。たゞそれが時代の要求に依つて變遷致します、今日の時代は何を最も幼兒教育に要求するか、是れが所謂新目標の問題のよつて起るところであります。

三

前に幼兒教育の全體としての根本的目標は、其の時代の要求に基かなければならぬと云ふことを申し上げました。然らば今の時代が今の幼稚園に

要求して居りますることは、何う云ふことであらうかと云ふことを先づ第一に考へる必要があらうと思ひます。素よりそれは澤山に在ります、實に無限と云つても宜いのであります。併し私の思ひまするには、凡そ二ッの積極及び消極の大要求があると思ふのであります。先づ考へなければならないことは、現代は人爲的文明が非常に盛んである爲めに、其の爲めに受けまする人類の幸福が增加しましたと共に、又一方には幼兒の身體、及び精神上に非常なる迫害を加へて居ることであります。昔の子供が知らなかつたところの危險を今の時代には澤山見出すのであります。殊に神戸大阪京都の如き盛んなる大都會の兒童に於きましては、最も其事の著しきを見るのであります。此頃の子供の研究中、其の土地の境遇の種類に依つて研究することが又一の題目となりまして、都會の子供、或は田舍の子供、或は郊外の子供と云ふやうな問題を掲げ、之れに依つて、研究して居る人があります。殊に此大都會に於ける子供は如何なる特別の事情の下に生活して居るかと云ことを調べまするのは、最も必要なることゝして研究されて居るのであります。實は私は五年ばかり前に大阪へ來ました時に、此問題を著しく感じまして、それ以來少々研究致しました結果、我國の都會の子供が彼の西洋に於ける都會の子供の受けて居る種々の損害に、漸次近ずきつゝあると云ふことを非常に悲んで居るのでござります。卽ち都會に住つて居りまする人は、田舍に住んで居りまする人よりも多くの生活上の困難を與へられ易く、是れが色々の方面から子供に影響して居ります又假りに生活上直接の困難を免れたとしたところで、光線の缺乏、又は騷しい四圍の音響のために、子供は非常な妨害をされて居ります。夫れは如何なるところに一番大いに損害されて居るかと云へ

ば、子供の身體も害されて居りませうが、私は子供の神經系統が受くる被害に就て最も恐ろしく感ずるのであります。此の意味に於きまして現代の子供は都會が與ふる神經系統上の迫害に堪へる、卽ち之れを防いでこれに堪へて行くだけの準備をしなければならぬと云ふことが新らしい時代の必要になつて來るのであります。是れは千年前五百年前或は三百年前、或は百年前、或は五十年前の子供は毫も知らなかつたところの時代の新要求であります。

もう一ッは世潮が段々激烈になつて參りますると、世に生き甲斐のある生涯をして行かうと云ふには、愈々強い實行力を必要とする時代になつて來たのであります。此事は必ずしも幼兒教育に關したことのみでありませぬから、詳しく說明する必要はないと思ひますが併しながら今日の社會に於きましては、特別なる學者的生活とか、詩人的生活とかを除いて、一般普通の國民としては、兎に角に努力の生活、卽ち實行の生活が非常に必要なる時代になつて來て居るのであります。さうして此の實行、此の奮鬪、此の精勵の生活、所謂精力主義と云ひますが、總ての艱難に打克つて疲れず所信と使命とを實行して行き得ると云ふことは、是非とも其の人の神經系統の力に俟たなければならないのであります。

卽ち一方からは此の時代が幼兒の神經系統を害する、一方からは時代の生活が益々强健なる神經系統の力を要求する、其の消極積極表裏二面の要求が卽ち今日の時代の要求なのであります。果して然りとすれば、此の時代に緊切に適合した幼兒教育の目標は、幼兒の智識を進むると云ふことも素より必要である、幼兒の道德的品性を高むると云ふことは尙一層必要でありまするが、殊に今日の時代の特殊なる要求としては、幼兒の神經系統

の教育、換言すれば幼兒の神經系統の保護と其の養成とが、新らしい目標でなければならないと考へるのであります。

四

昔ソクラテスが言ひましたと云ふ言葉の中に「自分の知つて居ること、其の知つて居ることを爲し能ふこと、が一致しなければならぬ」と云ふことがあるさうでありますが、此の言葉は更に現代的の解釋を以て新らしい意味を有して居るのであります。マシウアーノルドでありましたか、「人間の生活の三分の一は考へることで、三分の二は之を行ふことである」と申しました。我々は考へずして、たゞ行なつて居ることは固より出來ないのでありますけれども、考へてばかり居て爲すことのない人は、遂に此の世の中の劣者となり、敗北者となりて終るのであります。教育が其の子供の感情、智能の働きを非常に練磨しまして、遂に其の子供は美しき感情と、豐富なる智識とを以て此の世の中に出されましても、若しも此の感情に基き、其の智識に基いて之れを實行するところの力がなかつたならば、其の人は教育の結果、誠に立派な、誠に賢明な人ではありませうけれども、併し甚だ物足りない人として一生を終らなければならないのであります。此頃亞米利加のスタンレーホール氏の言葉の中に「人間の性格は、其の人の活動能力の總和である」と申して居ります。是れは冷靜な科學的の定義としては必ずしも完全とは云へないかも知れませんが、併し此の時代の要求を目の前に置き、之れを非常に強く感じて、自分の教へて居る子供が斯くの如く時代に出て行くのであると云ふ將來を見越して考へますと、スタンレーホール氏の所謂活動能力の總計が其の人の品性であると云ふやうな定義を我々は下したくなるのであります。而して其の活動能力此の

世の中に立つて強い力を以て事をすると云ふことは、もう一つ奥へ入つて考へると、其の人の筋肉の力、神經の力であります。そこでスタンレーホール氏が近世の道德としては、筋肉の道德と、筋肉の不道德とがあると申して居りますのは、最も意味の深い言葉と思ふのであります。感情の上の道德があるやうな工合に智識の上の道德あり、又筋肉の道德と、筋肉の不道德とがある譯であります。總ての困難に堪へ、且つ又自分の感情なり、自分の智識なりに從つて、吾が爲すべきことを勇氣を以て爲し得ると云ふことは、其の人の神經の働きであります。即ち神經の道德の偉大なる人であります。常に疲れ、常に衰へ、常に悄憔して居りまして、何事にも直ぐ飽いてしまひ、總てのことに活潑なる精神力を發揮することの出來ない人は、假令其の人の感情の中にはどんな麗はしいことを思つて居るかも知れないけれとも、是れは筋肉上の不道德であると云ふことをスタンレーホールが申して居るのであります。是れは現代の要求に對する一の考としては實に痛快なる思想であると思ふのであります。

そこで私共が敎へまする子供、私共が愛して居りまするところの子供は、之れを悧悝な者にもしたい、麗はしき感情の者にもしたい、素より身體の健康な者にもしたい、併し私は先づ第一に其の神經の健康なる者にしたいと云ふことを感ずるのであります。即ち私の今日演題として掲げました『幼兒保育の新目標』は神經の健全强健なる子供を造ると云ふことに外ならぬのであります。一體近來は神經衰弱であるとか、ヒステリーであるとか、ヒポコンデリーであるとか、或は何だかクヨ〳〵泣いて居る、或は蒼ざめた顏をして悄然として市中を歩いて居る、然う云ふことが近來的、現代的である。其の人が肥滿して、眞黑な顏をし

て、さうして忍耐強く働いて居ると云ふことは野蠻的である弱々しことが現代的である、強さうな者は現代的でないと云ふやうな考が蔓延りまして、其の爲めに神經系統の衰弱から生ずるところの社會的出來事及び犯罪事件が澤山に殖えて來て居るのであります。又精神病者の增加と云ふことが現代の著しき現象になつて居ります。又最も憂ふべきことゝして、我國に未だ幸に然う云ふことがありませぬけれども、歐米殊に佛蘭西等に於きましては、少年自殺者が段々增加して來て居ります。青年にも達しない子供が、チョット叱られたとか、チョット試驗に落第したとか、或はチョット何か失策をしたとか云ふやうなことに因つて、其の苦痛、其の不面目、其の悲嘆に堪へ、打勝つことが出來ずして、直ぐ自殺してしまふと云ふやうな精神の薄弱なる者が增して居るのであります。外圍の刺戟に對して聊かも持ちたへることの出來ない、然う云ふ神經系統の弱々しき子供が、あの彼方には次第に殖えて來て居ると云ふことを聞くのであります。さうして其の原因となるべきことが我國に於きましても、矢張り次第に殖えて來るとしますれば、我國の子供も亦遂にはそんなことにまで追々進んで行くのではなからうか。これは考へるさへ甚だ厭なことであります、けれども私共は密かに心配せねばならないと思つて居るのであります。實に今では神經系統の衰弱が文明人の當り前のことのやうになつて居ります。卽ち個人的神經衰弱と云ふことは通り過ぎてしまつて、所謂社會的神經衰弱と云ふやうなことになつて居ります。其の一人々々を責めるよりも、時代の弊かも知ません、

ところで現代の文明益々然う云ふ侵害を與へまするに拘はらず、敎育の目標は昔の儘にして居つて、それに對する何等の工夫も與へなかつたなら

ば總ての人は滔々として神經衰弱になつてしまふのであります。これは我國家の上に非常なる憂ふべきことゝ云はねばなりません。而して此時に於て我幼稚園の教育なるものが、其の潮流に對して、何等の防衛をもなさないとするならば、其職責に對して甚たすまないことになるのであります。前に幼稚園教育が今日我國からとられたらば、何うなるであろうかと云ふ問を提出しましたが、私の翼ふところに依りますれば、幼稚園の教育があるがために日本國民の神經系統が其の適當の年齡に於て擁護され又強められるのだと云ふ事を三年の後、五年の後、又其の後の將來に於て、ますます云ひもし、言はれもしたいと思ふのであります。素より神經の教育と云ふことは幼兒教育のみに限つては居りません。小學校時代に於きましても中學校時代に於きましても、殊に高等女學校時代に於きましても、神經系統教育と云ふことは非常に必要でありますが、併しそれ等時代の教育は神經系統教育以外に多く色々なる役目を負はされて居ります。色々なことを教へなければならない、國民として、又一個人としての生活上の技倆を與へると云ふやうな色々な要求があるのでありますが、幼稚園教育に於ては、他のことは比較的何も致しませぬでも社會が之れを責めませぬし、充分に此の神經系統の教育に專心することが出來るのであります。又一方に幼稚園時代に於きましては、幼兒の智識を開發することが出來ませぬでも、これは後に取返すことが出來まする併しながら神經系統の健全、不健全と云ふことは、丁度此の幼稚園時代に於て最も其大切なる時期に在るのでありまして、此時に其の神經系統を害されたものは、成長の後に至つて恢復が甚だ六つかしいのであります。是に於て私は殊に幼稚園教育に於て神經系統のことを考へて戴きたいことを希望するのであ

ります。

五

ところで此目標に對して施さるべき實際問題に就ては、色々のことが考へられなければなりますまい。併しそれは大層細かい部分的の問題に渉りまするし、積極的方法としては研究が未だ充分に行き屆いて居ないのでありますから。今日は以上申して參りましたやうな見地を以て、今幼稚園を觀ましたときには、何う云ふ感じを持つかと云ふことを側面的に御參考として申し述べて置かうと思ふのであります。

今月の幼稚園教育は色々改善を盡されて居りますがそれに拘はらず私共の甚だ不思議と思ひますることは幼稚園教育の中心が昔のまゝに矢張り室内に在る事であります。幼兒を教育する場所と云ふものは、屋根の下、壁の中でなければならないと云ふことは、フレーベルは勿論、誰も然ふ云ふことを申した人はありませぬ。是れが小學校以上の教育でありまするならば、野外では出來ない、色々な設備も要るし、又注意集注の爲などから何うしても壁が必要であり、屋根が必要であり、教室と云ふものが必要でありませうが、幼稚園教育に於ては決して然う云ふ事はないのであります、而かも幼兒教育が進歩したに拘はらず、其の中心が矢張り壁の中に引込んで居ると云ふことは、甚だ奇異な話なのであります。多數の子供を室内に置きますることに因て生ずる弊害は澤山に在りますが、今日のお話の見地から考へて見ますると第一に酸素の缺乏と云ふことが、如何に子供の神經系統の方に害を與へるかと云ふ問題を考へなければならぬ。惡い空氣の中に子供を置くことの不可なることは、昔から知れきつた話であります。併し何故可かぬかと云へば、肺が惡くなる、呼吸器が惡くなる、卽ち身體の健康に及ぼす害と云ふと

ころからいつも論せられるのであります。是れは確かに事實であります。併し吾々といたしては尙ほ他のことを考へなければならないのであります。御承知の如く酸素が人間に與へまする損害の一番著しい所は腦の皮質であります。卽ち人間の精神的生活の中樞でありまするところの大腦の皮質が最偉大なる害を被むるのであります。マーセットの研究に依りますると、酸素の缺乏は人間の意志の虛弱を來すと言つて居ります。卽ち酸素の缺乏に依りてたゞ肺が害される、心臟が害される、心臟が害されると云ふところに心配を留めて置くのは、我々に取つて甚だ不充分の注意でありまして、夫れより進んで意志の中樞に害を受けると云ふことは、我々に向つて近頃の學問が敎へて呉れる怖るべき事實であります。果して然らば何を苦しんでか、酸素の澤山に在りまする室外に於て子供を保育せずして、子供を室內に押込めるのでありますか。或は壁の中に、而も天井の低い所へ押込めて置くのでありますが。昔の人は能く子供が惡い事をすると其の頭腦を打毆りました。今の人は子供の頭を打つと馬鹿になる子供の頭を打つては可けないと云ふことを申しますが、室內の敎育なるものは、恰も酸素の缺乏を以て子供の頭腦を打毆つて居ると云つても宜いのであります。

第二は机の保育であります。殊に手技手藝の保育であります。私共が幼稚園を拜見に出ると、いつも觀せて下さるのは是れであります。又幼稚園の成績品を陳列すると云へば、三歲の子供がこんな細かいことを仕ましたかとか、こんな器用なことを仕ましたとか、さう云ふものを誇つて居られるのであります。併し此事が幼兒の神經系統に如何なる關係を持つて居るかと考へまするとまた一の驚くべき心配を我々に與ふるのであります。第一は幼稚園時期の子供をして長い時間の間靜かに座

らせて置くと云ふことの弊害であります。これは何も幼稚園時期に限りませぬ。皆様に對しても長いお話をして餘り長く座らせて置くと云ふことは非常に可けないことであらうと思ひますが。幼稚園時期の子供に對しては、自然的生理的に害の甚だしいことであります。ハノックと云ふ人は五歳から七歳までの年齢の子供に就て面白い研究を致しました、子供の身體がどれだけ靜かに立つことが出來るかと云ふことを實驗的に精密に器械を以て研究致しました。ところが其の結果五歳から七歳の子供に於ては、中樞の支配を以て長く靜止することは不可能であると云つて居ります。更に同じ研究をカーチスと云ふ人かモット細かに致しました其の結果五歳以下の子供は平均三十秒以上靜座することが困難であることを見出しました。私は初め此の報告を讀みましたときに、三十秒と云ふ秒の字は餘り變である、セコンドと云ふ字が使つてありましたが此のセコンドと云ふことは私も知つて居りましたけれども、もう一度辭書を引いて見たほどでありました。幾ら五歳以下の子供でありましたところで、三十秒以下とは餘りに劇しいことのやうに思ひましたが、カーチスの實驗は之れを證明して居るのであります。五歳以上十歳ぐらゐの子供になりましても、一分乃至一分半、それ以上の靜座は困難だと申してあります。素より是れは極く細かい實驗上の靜止で此事を以て直ぐに幼兒教育を三十秒以上してはならないと云ふのではありません。併し大人の標準を以て子供に靜座を強いることが如何に子供の自然性に反して居るかと云ふことは凡そ想像が着くのであります。

更に手技の色々な仕事と云ふものは、多く指尖を用ゐてする仕事であります譬へば針を通すにしても小さな孔をたどつて通すので中々六つかし

い、併し此の指尖を以て子供が精密なる仕事をすることが困難であると云ふことは又實驗的に色々證明せられて居るのであります。矢張りハノックが研究しました。針を通しましたり、或は器械を速かに指尖で打ちましたり、然ういふやうな手尖でする細かい仕事を研究して、斯う云ふ結論に達して居ります。身體の運動の發達は……殊にハノックは手でやりましたが、先づ肩の筋肉の運動が一番早く發達する、其次は肱である、其次は腕である、次が手である、手の中でも人差指は比較的早く發達するけれども、指尖の發達と云ふことは非常に後のことである、普通の五歳から六歳ぐらいの子供に於て、如何に其の子供が優良なる子供であつても、普通の狀態は丁度精神病者にある運動の失調に似たものである。或は舞踏病、或は麻痺性の病氣に同じものである、卽ち夫れ以上の精密な仕事を要求するのは不自然であると云ふことを申して居ります。我々が實際に之れを應用するときに於ては、又其所に種々の斟酌もしなければなりませぬけれども、併し餘り細かい正確なる仕事を子供に强ひると云ふことは、非常に生理的、自然的不自然であります、卽ち是れ亦大人の標準を以て之れを强ひると云ふことは最も亂暴な話であると云ふことは、之れにて直ちに見當が着くのであります。一體近來は小學教育に於ける手工教育に對してさへも種々な點の批難が出て居ります。譬へば手工教育は腕から先だけの筋肉を使つて少しも身體全體の筋肉を使はない殊に手工の弊害は腰から下の足部の筋肉を度外視して居ると云ふやうなことを擧げて攻擊をされる人があります。況んや幼稚園教育に於て或長い時間の間、殊に先生のお上手な奬勵法に依りまして子供の自然に反し居ることを敢てしなければならないやうにされて居るのは、實に近世教育の進歩に於ける矛

盾であると云はなければなりません、元來運動の筋肉の發達は基礎的の方からして段々基礎的でない細部的のものに向つて進んで行く、卽ち胴とか肩とか云ふやうなところの大きな筋肉の發達から、段々手先、或は足の指尖、或は顏面の筋肉と云ふやうな小さい方の部分に發達して行くのであります。然るに此の順序を無視して、我々が大人の標準を以て今日吾々が物事をするのは手先である手先は器用にならなければならない、何でも手を發達させなければ可けないと云ふ論理は如何にも大人に道理でありますけれども、併しながら子供に取つて見ましては、往々不自然な要求になるのであります。今日の幼稚園教育に就きまして斯う云ふ方面から批評して見ますれば、尙ほ色々なことがあらうと思ひますが、たゞ以上二三のことを考へて見ましても、今我々の爲して居りまする幼稚園の教育法と云ふものは、子供の感覺を發達させ、子供の手を器用にさせると云ふやうなことが中々重く見られて居ります。併しながら神經系統の擁護、及び其の養成と云ふやうな新らしい目標に對しては、是れが決して適當のものではない。自から其の方法に變更を見なければならないと云ふことを考へらるゝのであります。

六

そこで是等の缺點を救つて、さうして此の新らしい目標に合ふやうに仕まするには、何うしても戸外に重きを置かれて來なければならないであります。御承知のやうに教育は屋根の下壁の中にあるものと云ふ一の定義から離れまして、野原でも出來るものである、森林でも出來るものである、雨が降れば初めて屋根が要ると云ふやうな、殆ど今までの教室、保育室、開誘室とは異つた意味になつて來なければなりません。斯ることは小學教育としては現に此頃の新らしい傾向でありまし

て卽ち野外學校でありますとか、森林學校でありますとか云ふものは、皆此の新らしい考の上に立つものであります。初めて千九百六年でありましたか、伯林の近部のシャロッテンブルグの松林の中に森林學校が出來まで た以來、英吉利の方でも、亞米利加の方でも、然う云ふ學校が出來るやうになりました。殊に亞米利加の或學校のごときは、其の戸外學校を開かうとしまするのに、既に土地がない爲めに、在來の學校の屋根の上に一の戸外敎室と云ふものを造つて居るくらゐであります。私は寫眞の繪で見たのでありますが、其の苦心に驚いたのであります。理論から言つても、實際から言つても斯くの如き趨勢に對しまして、我々が現在の幼稚園の建物を以て、保育の中心とし、之れに附屬して居る遊び場はチヨット息拔であると云ふぐらゐのものに考へられて居ると云ふことは、非常な間違ひであらうと思ふのであります。

但し外國に於ける郊外學校、森林學校のごときは多くは氣管支、或は神經系統の弱い子供、或は既に病氣になつて居りまする子供のために設けられて居るのでありまするけれども、今申し上げましたやうな有樣から申しまするならば、先づ健全なる兒童を然う云ふ所で保育して行くと云ふことが、都會の幼稚園に於ては最も必要であると言はなければなりません。

次に考へて見なければならないのは、今日まで我々が金科玉條として居りましたところの、一々物差で測つて何寸四方でなければ可かぬとか、或どのくらゐの重さでなければ可かぬとか云ふやうにして拵へたところの人爲的保育材料、卽ち幾つかの恩物と云ふものであります。一體此の恩物と云ふものは更めて申すまでもありませぬ、フレーベル先生の深い考から案出せらたものでありますが、其の精神の貴重なると共に先生は非常な厄介

なものを我々に遺して呉れたものであります。即ち前に申し述べましたやうな手先の仕事の弊も多くして此の恩物が災をして居ります。恩物は英語でギフトと申します、即ち天から與へられた物と云ふのであります。併し現在眞の恩物とて天が與へて居るところの物は樹木、草花、石砂、土、水、其他澤山の自然物あります。態々指物師に賴みまして、寸法何うとか斯うとか云ふ、そんな小さい恩物を用ゐなければ恩物でないかのやうに考へて居りまするのは、非常な間違でありまして、フレーベルが今日尙ほ居りまして、新らしい兒童研究の結果を知られましたならば、必ずや此の恩物主義は撤回されるであらうと思ふのであります。然らば野外に出しまして酸素の供給を充分にして自由に自然物を以て遊ばせ、さうして末端の神經の作用を後にして、足、腰、肩と云ふやうな大きな筋肉の使用を先づ以てさせることが幼兒保育の新目標に合つたことなのであります。都會の子供は天が本當に與へて呉れまする恩物、即ち自然物に對して如何に貧弱な智識を持つて居るかと云ふことは實に驚くべきことであります。彼の新入兒童の觀念調査を一番初めにされたのは、伯林の子供でありましたが、其の伯林の都會の子供にして、既に小學校に這入ると云ふ年齡に達しながら、森を知つて居る者が百人中三十六パーセントぐらゐの割合であります、十人の中に三人ぐらゐの割合であります。山を知つて居る者が三十二人ぐらゐ日の出を見た者は三十一人それから又露と云うものを知つて居る者が僅に二十三パーセントでありました。其他所々で斯う云ふ風な研究をして居る學者がありまして、殊にスタンレーホール氏のときは、小學校入學の子供が如何に自然の智識に就て缺けて居るか、殊に都會兒童が之れに缺けて居るかと云ふことを極論して居ります。斯くの如

く自然のことに就て智識が少ないと云ふのは何も樹木や草花の智識がないと云ふばかりではありません。モット大きく考へれば兒童が如何にも自然に接する機會が少ないと云ふ憂ふべき事實の證明になるのであります、此事は西洋の報告に依つて見て居たのでありますが、京都大學の野上君が京都の小學校に入學する子供に就て調べました研究に依りましても樹の名は平均一人に就て一種九分であつた、二種以上の樹の名を知つて居る者はないのであります。草の名に至りましては一種まで行かない、平均一人につき九分二厘であります此事は比較的自然の多い大都會と云はれて居る京都に於て、斯くの如き有樣であるとしまするならば、大阪の如き、神戸のごときは大體想像が出來るのであります。是れ戸外保育、野外保育、自然的保育の急務は斯る方面からも要求せらるゝのであります。是れは歐洲に於ては段々氣附かれて居ることで、彼の有名な伯林のペスタロッチーフレーベルハウスの現況を聞いて見ますると、室内の作業と云ふものは段々減じまして、著しき程度に於て室外と云ふことが重んぜられて居ります。園内に牛が飼つてありまして子供の前で其の牛の乳を搾る、或は畑地を耕し、草花を植ゑる。然う云ふ野外的、自然的保育が盛んに採用せられて居るやうであります。これは我國の都會幼稚園に於て現今最も注意すべき點と思ふのであります。

もう一つ終りに申上げて置きたいと思ひますることは、總て子供に對する色々なことは御婦人の力を藉りなければならないと云ふことが、此の神經教育と如何なる關係を有するかと云ふ點であります。私の思ふところを露骨に申し上げますと、御婦人が保育をして下さることは、百の利益、千の利益萬の利益と共に、茲にたゞ一ツ起り易い缺點が有り得るのであります。此事は今日御婦人のみ

お集りの所に於きまして、甚だ失禮なやうな言ひ方ではありますが、事實として子供の利益の爲めに一の苦言としてお聽取を願つて置きたいのであります。一體現代の文敎がフエミニズム……婦人式とでも譯しますか、或は意譯してやさし主義とでも申しませうか、然う云ふ風な傾きを有すると云ふことは、社會一般の風かも知れませぬが、是れは少し考ふべきことであります。勿論其の傾向に至極良い點も澤山にありますが、私の今日申し上げました時代の要永に對してどうも是ればかりではならないと思ふのであります。幼稚園敎育法の一の弊害として、小さい筋肉、小さい神經を使用するといふことに自然傾いて來て、相撲は取らない、競走はしない、木登りはさせない、餘り走つては危いと云つて、手を引いてそろ〳〵歩く、植物を弄ると云つても大きな木を弄らない、たゞもう小さい草や花を弄る。素より植物は大きなものでなければ利益がないと云ふことはありません。けれども兎に角然う云ふやさしい細かいことにのみ傾き易いと云ふことは、是れ又今日の一の缺點であると言はなければなりますまい。

七

幼稚園敎育法が今日色々な人から往々にして攻擊されたりして居ります。それも多くは素人の言ふことだと思つて聞き流して置いても宜いこともありますが、それ等の批難の中で幼兒の精神疲勞問題に就ての論議は、誠に幼稚園敎育の中心に觸れて來る論であります。三歲四歲の子供をあゝして大勢保育して居ることは、他の利益が百あつても、其の幼兒の神經に無理な疲勞を一ッでも與へたならば、其の百の利益は皆失はれてしまふのであります。幼稚園敎育者自身が神經系統の敎育と云ふことに就て、未だ餘り氣の注かない間に外部から段々此の種の心配を惹いて居るのでありますす

即ち神經系統の教育に對して適當なる方法を施し得ましたならば、始めて時代の要求に適合するところの我國民の將來に大影響を有し得る、新らしい幼稚園の存在甲斐があるのであります。大層長いお話を致しましたが、此問題は、是非深く考へ戴きたいのであります。

夏やすみ後

○夏やすみが殘して行つて呉れた雜草が園一ぱいに蔓つて居る。お山の上にも、砂場のまわりにも、花壇の後ろにも、人跡まれなる大原野の態に茫々と茂つて居る。おひしば、めひしば、あれちのぎく、おいばこ、とぼしがら、のびる、かたばみ。むらさきかたばみ。其の間をこうろぎが飛ぶ、ばつたが飛ぶ。こゝ暫くは雜草主義遊園の理想の時。

○練瓦敷の遊園にも、アスファルト敷の遊園にも、季は此の雜草を惠もうとして居る。併し上から重たく抑へつけられ、隙きまもなく敷きつめられて居ては、草は下で泣いて居るに相違ない。一と夏の干燥した日光にから〳〵に粗されて、ほこりつぽく、かさついて居る人工遊園に、此の純自然の趣味深いおもしろ味は得られない。

○なにがしの茶の宗匠が設計にかゝるといふ。庭師をいれて何百圓かゝつたといふ。珍葉奇石、山のたゞずまい、泉水の眺め、ハゝア結構ですと茶の十德かなんかゞ賞鑑する樣な御庭に、此の雜草がはえたらどうであらう。殿樣のお聲かゝりで草一本あつてもならぬ。刈れ々々一日も早く刈つて仕舞へといふことになるだろう。その刈つたあとは何とする竹垣などうちめぐらして、いとみやびに、風情おかしく打ち建てられたる立札には、墨のあと美しくも、子供禁制とかゝれたる。

○兎に角くに子供は大よろこびである。牛ズボンの膝を沒する雜草の間を馳け廻つて、きやつきやつと言つてばつたを追ふて居るみづひきの赤いのをしごいて來て、小さな紙きれに包んだり、あをぎりの實をむしつて葉に盛つたり、おまゝごとの御馳走はいくらでもある。お庭でも、公園でも、幼稚園でも、草は見るものの花は眺めるもの。その、見て眺めて而して觸るゝべからずときまつて居る草が、こゝ暫くは遠慮なくふんだんにむしつよいのである。草と一しよになつて遊んでよいのである。當分は別に玩具も何もいらない。此の雜草にこそ、自由自在の玩具がある。愚物がある。

○可愛そうな都會の子供達は、此の雜草を特別の賜物のように喜んで居る。自分達の生活に必然の世界として、いくらも自然が與へて居て呉れる野も知らず山も知らず、そこで遊んだ先祖達の幸福も知らず。たま〳〵の夏やすみを利用して、自然が辛じて與へて呉れた此の雜草に、渴けるものゝ水を得たように喜んで居る。そして年に一度づゝの此の雜草に、眞に面白い遊園の樂しさを享けて居る。

○年にたつた一度でも此の雜草のある幼稚園は幸な幼稚園である。一日でも多く此の雜草を刈らずに置いて下さる先生は感謝すべき先生である。

雜錄

大阪にて

倉橋生

○大阪市西區保育會主催の幼稚園教育講習會が九月三日から一週間同區靱小學校を會場として開かれた。大阪市内各幼稚園の保姆諸君、それに神戸、京都、堺、明石、近江等の保姆諸君を併せて二百に近い熱心なる諸君の日々の出席は、太だ以て盛といはなければならない。殊に市視學諸君、小學校長諸君、その他直接幼稚園當事者でない諸君が特に此の問題に興味を以て多數臨席せられたことは、此の種の講習會としては特筆すべきことであらう。以て大阪市保育界の熱心を見るべきである。たゞ其の熱心に對して講師たる余が何程の貢献をなし得たかは頗る疑はしい。

○講習は保姆諸君の午前中の勤務時間を避けて、午後一時半から開かれた。そこで其の午前を利用して、毎日市内各幼稚園の參觀をした。尤も夏季中の短い保育時間のこと故、ゆつくりした參觀も出來ない。一園の保育を拜見して、他は遊園や園舍の設備を拜見するといふ風に、一日に多きは四回も參觀をした。隨分大急ぎの走馬燈式參觀といはなければならない。從つて一つ々々の園から詳密な印象を得ることの出來なかつたのは殘念でもあり又各園に對しては失禮たらざるを得なかつた。併し斯ういふ參觀によつて、漠とながら『大阪の幼稚園』の何ものかを概觀し得たことは幸であつた。但し大阪市の幼稚園の總數中參觀したのは約半數(靱本田、日吉、高津、東江、西六、江戸堀、愛珠、船場、汎愛、北大江、敬英、御津、精華、管南)、に過ぎなかつたから其の概觀素より充分とはいへない。(出來ることならば、一寸づゝでも總ての園を拜見し度かつたのが、何分短期間のことゝて出來なかつたのは今回參觀の機會を得なかつた幼稚園の諒承を乞はなければならない。)

○一週間の所感の最大なるものは、大阪の幼稚園が、今やその熱心なる努力を何か新らしい方向に向くるの機運に熟しつゝあると思つたことである。午前の參觀と、午後の會場と、及び旅宿を訪れて下さつた多數の方々とのお話で、何よりも感じたのは大阪の保姆諸君が實に問題に富んで居らるゝことであつた。換言すれば實によく考へながら日々の保育をして居らるゝ人の多いといふことであつた。かねて大阪の保育界を觀て、各幼稚園の建物の立派なのに感心する人が多い。しかし余はそれには少しも感心しなかつた。寧ろ餘りに「立派」で呆れたこともあつた位である。また大阪の幼稚園教育は他とは飛び離れた程進歩完成して居るといふ噂を聞いて居たが、有體にいへばそれ程にも驚かなかつた。たゞ驚き感じたのは保姆諸君がよく考へて居らるゝといふことであつた。

○考へたからとて間違のない完全なことが直ぐ實現せらるゝといふ譯ではない。しかし考へることがやがて新らしい進歩をも完成をも生むのである。實際大阪の保姆諸君は、考へて考へて考へて、古いまゝではあきたらない不滿足が、正に其究極にまで達して居るのではあるまいかと思つた。斯くして進んでゆく大阪の保育界は此の熱心なる努力のつゞく限り、則ちどこ迄進歩し、どこ迄完成するか測られない。之れは考へない保育界には得て期待すべからざる樂しき希望なのである。

○出來る出來ないは複雜な事實上の相談である。理想と實現との間には屢々容易に超へ難き海峽がある。しかし眞摯なる研究と

熱心なる工夫とは、思ひがけない橋梁を此の海峡に架けて吳れることがある。そして嘗ては吾々の住み難き國と思つて居た理想の島が、案外住むに住み易く居るに居易すき國となることがある。住み古した故國にのみ安居を索めて、新らしい世界を嫌ふはなまけものゝすることである。眞摯なる研究と、熱心なる工夫とを棄てゝ仕舞ふて居るなまけものゝことである。光の多い新しい世界、寶の多い新しい領土は、そういふ人々の手には歸せない。而して比較的未開耕の保育界には此の新世界、新領土が總ての人の目の前に澤山にある。

○『さらば』『さらば』わざ〳〵お見送り下さつた多くの人々と別れて、汽車が梅田のプラットフォームを離れる時ふと余の頭に浮んだ言葉は『大正の幼稚園』といふ言葉であつた。そうして考へた。もの皆著しい年毎の進歩改善をつゞけて來たきのふまでに、たゞ一つ幼稚園教育丈けは他の教育に比して進歩改善が著しいと謂へなかつた。之れは甚だ殘念のことであつた。而して吾々の非常な奮發を要すべきことである。大正元年大阪に開かれた此の幼稚園教育講習會も亦此の新らしい奮發の小さい第一着手でなければならないと。

○終りに、西區保育會長伊佐氏、同副會長青木氏、殊に膳、小久保、上々手三幹事其の他の方々の最も懇なる御接待を厚く々々感謝に堪えないのである。

本誌定價

一冊郵稅共金拾壹錢　六冊前金郵稅共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

（庶務上保姆紹介に關する件をも含む）の御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園內、雨森釧宛

本誌編輯の御用務（寄稿、廣告等）は東京府下千駄谷八七八倉橋惣三宛

大正元年十月二日印刷
大正元年十月五日發行

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八　倉橋惣三

印刷者　東京市本所區番場町四番地　井平登

印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京市小石川區久堅町七十四番地　フレーベル會